

直方文学散歩・小説編
林芙美子の「放浪記」(続き)

林芙美子の直方滞在

林芙美子(1903~51)の
出世作である「放浪記」(昭和5年
1930年)は自伝的小説であって、
ノンフィクションの自分史ではあり
ません。

従って、冒頭に書かれている直方
時代の思い出が全て事実であるとは
言えず、脚色や記憶違いも当然含ま
れています。

北九州市立文学館の今川英子館
長が作成した林芙美子の年譜によ
ると、大正3年1914年の鹿児
島市の小学校編入の次は大正5年
1916年の尾道市の小学校編入
で、その間は不明。「九州各地や筑
豊の炭坑街を転々としていたと思わ
れる」とされています。

直方訪問の記録

この年譜によると、大正8年
1919年の尾道高等女学校時代に
当時直方に住んでいた実父の宮田
麻太郎に会いに行っています。(手

紙が残されていました。)

その後、上京後は直方訪問の記録
はなく、これが最後の訪問だと思わ
れます。

尾道転居の前年である大正4年
1915年の夏から直方に滞在した
というのは、いわば状況証拠であっ
て物的証拠はないわけです。

やはり直方には滞在していた?

まだ作家ではない女学生時代に一
度訪問して町を歩いたり話を聞いた
りしただけで、あれだけ生き生きと
した小説を書けるとは思えず、十二
歳の感性豊かな少女時代に直方に滞
在したのは事実と筆者は思います。

直方時代の記述が「文章も生動し
ていて主題を凝縮し、全編のたくみ
な序曲となっている。」(足立巻一・
現代日本文学アルバム13・昭和49年
1974年)という指摘も説得力が
あります。

「放浪記」の虚実

牛嶋英俊氏が「西日本文化」
2009年10月号に寄稿した「放浪
記の虚実」には、複数の指摘があり
ます。
・通勤で直方駅を利用する坑夫たち
にバナナがよく売れた↓疑問。

・多賀さんの祭には、きまつて雨が
降る。↓これは春祭りのジンクス。

長編小説「二人の生涯」の脚色

昭和15年1940年創元社初版。
これも自伝的小説ですが、放浪記と
はかなり印象が異なります。

作家として成功してからの印税で
中国や欧州を旅行した史実が、実父
から旅費を出してもらうなどの脚色
があります。

小学校の通学歴も長崎・佐世保・
下関・鹿児島・若松・直方・尾道と
史実とも放浪記とも異なります。



一人の生涯
(初版本表紙)

林芙美子は鞍手軌道を見たか?

直方滞在中の大正4年1915年
10月に鞍手軌道が直方まで開業して
宿泊していた木賃宿のすぐ近くを蒸
気機関車が走り出したのですが、放
浪記には記述がありません。やは
り少女には興味が無かったのでは
しょう。

直方の歴史と文化

文 柗 正 澄

文化財に関する問い合わせ：文化スポーツ
推進課社会教育係 (TEL 25-23326)

人の動き

■人口 56,624人 (-105) ■世帯数 27,246世帯 (+177)
[うち外国人632人]
男 26,762人 (-12) 全て令和2年1月末現在
女 29,862人 (-93) ()は前年同月との比較

<発行>直方市

〒822-8501 福岡県直方市殿町7番1号
URL ... http://www.city.nogata.fukuoka.jp/
<発行日>毎月1日(月1回)

<編集>企画経営課ふるさと情報係
TEL ... (0949)25-2236 FAX ... (0949) 24-3812
E-MAIL ... n-koho@city.nogata.fukuoka.jp
<印刷・制作>株式会社ワールドプリンティング

<編集後記>

「暖冬よいつ咲きますか チューリップ」
春です。チューリップフェアの時期で
す。今年は、暖冬の影響でチューリッ
プ開花の予想が難しいですね。早く咲
くのか、いつも通りか。気になって遠
賀川河川敷を眺める、この頃です。(Ki)

携帯電話向け情報提供サービス

直方市
ホームページ



市の情報がもりたくさん

情報メール
「つながるのおがた」



緊急情報、イベント情報など

直方市
インスタグラム



さあ、あなたもフォロー!

直方市バーチャル
ミュージアム



直方の文化を隅々まで